

空路急患搬送時の情報共有について

救急搬送時の現地医師・収容病院（救急部門）・添乗医師間の情報共有について、令和5年12月に都立4病院及び島しょ部の11の公立医療機関に医療用コミュニケーションツール「Join（チャット版）」を配備し、本格運用に向け調整を行っている。

医療関係者間コミュニケーションツール「Join（チャット版）」とは

- 音声通話やビデオ通話、チャット、簡易画像、動画の共有が可能なコミュニケーションツール
 - ・アプリ上で、特定の相手方とグループを作成し、グループ内での音声通話やビデオ通話が可能なほか、簡易画像や最大5分の動画の撮影・共有が可能
- 医療機器プログラムとして認証されたコミュニケーションツール
 - ・セキュリティ面ではHIPAA、EUGDPR及びISO27001に準拠しており、3省2ガイドラインにも準拠
 - ・患者情報は匿名化の上、暗号化通信で共有
 - ・医療機器プログラムとして認証

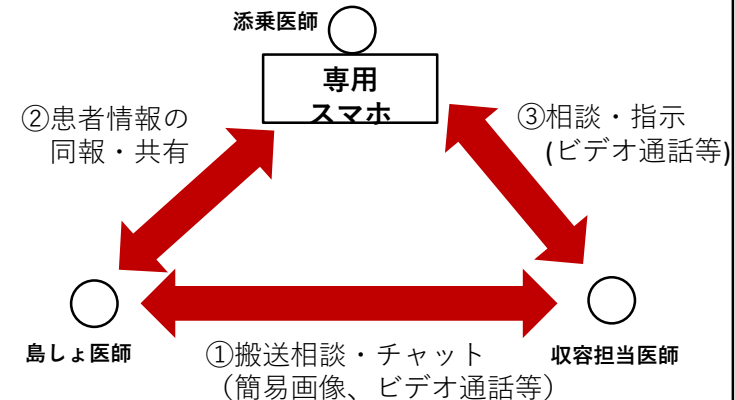
【チャット画面イメージ】



医療関係者間コミュニケーションツール「Join（チャット版）」の導入目的（※国の規制等により、現在は地上のみ通信可能）

- 島しょ救急患者搬送時の医療従事者間の多様なコミュニケーション手段確保
 - ・島しょ医療機関の医師と収容担当の医師は、搬送時の収容病院と島しょ医療機関との事前相談において、従来の口頭での相談に加え、簡易画像や動画を閲覧しながらの相談が可能となり、より詳細な情報を基にした相談が可能
- 航空機へ添乗する医師との連絡手段確保（広尾病院・多摩総合医療センター・小児総合医療センター・墨東病院）
 - ・添乗医師が都内の病院を出発した後も、本ツールを利用することで島しょ医療機関医師・収容担当医師・添乗医師との間で患者の容態変化等を必要に応じて共有することが可能

◆ Joinでの連携イメージ図



※令和7年度に事業評価を実施